

主な出土遺物（方形周溝墓1、2から）

弥生時代



壺
(方形周溝墓1 B 地点より出土)

弥生時代



壺
(方形周溝墓2 A 地点より出土)

孔（あな）
孔をあけることで、土器の実用性を失わせ、お供え用としていたと考えられます。

弥生時代



壺
(方形周溝墓2 A 地点より出土)

拡大



弥生時代以降



砥石
(方形周溝墓付近表土から出土)

文様
①② 列点文
③ 簾状文
④ 波状文
⑤ 刺突文
これらの文様があることで、土器を特徴的に見せていたと考えられます。

主な出土遺物（谷状の落ち込みから）

弥生時代



台付甕

鎌倉時代



山茶碗



ドブガイ

調査遺跡名 : 袴田遺跡（第2次調査）
所在地 : 三重県伊勢市磯町
原因事業名 : 令和8年度高度水利機能確保基盤整備事業（磯地区）
調査実施機関 : 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503
TEL 0596-52-1732 FAX 0596-52-7035

はかまだ

袴田遺跡（第2次）発掘調査 現地説明会

開催日：令和8年9月26日（土）

主催：三重県埋蔵文化財センター



【調査の概要】

袴田遺跡は、伊勢市北東部に位置する遺跡です。北に外城田川、南に宮川が流れる平野の微高地上に立地しています。袴田遺跡の発掘調査は昨年度も行われ、7世紀中頃の古墳が3基、7世紀末頃のお墓が4基確認されています。

今回の発掘調査では、弥生時代後期初頭（約2,000年前）の方形周溝墓と呼ばれるお墓が2基みつかりました。その周溝からは、供えられていたとみられる弥生土器が良好な状態で複数出土しています。中には胴部に孔があけられた壺もあり、当時の埋葬時の儀礼を具体的に示す資料として貴重です。

※ 周溝とは、埋葬施設を取り囲む溝のこと。埋葬施設は、今回の調査では削られてみつかっていません。



【 国土地理院「明野 1：25,000」に加筆 】

- ①袴田遺跡（今回の調査区 第2次調査）
- ②袴田遺跡（昨年度調査区 第1次調査）
- ③大藪遺跡 ④うるし原遺跡 ⑤磯神社
- ⑥丁塚古墳 ⑦小御堂前遺跡

ほうけいしゅうこうば
方形周溝墓（2基）

方形周溝墓とは、四周に溝を掘り、その内側に埋葬施設がある弥生時代のお墓のことです。今回の調査で弥生時代後期初頭の方形周溝墓が2基みつかりました。

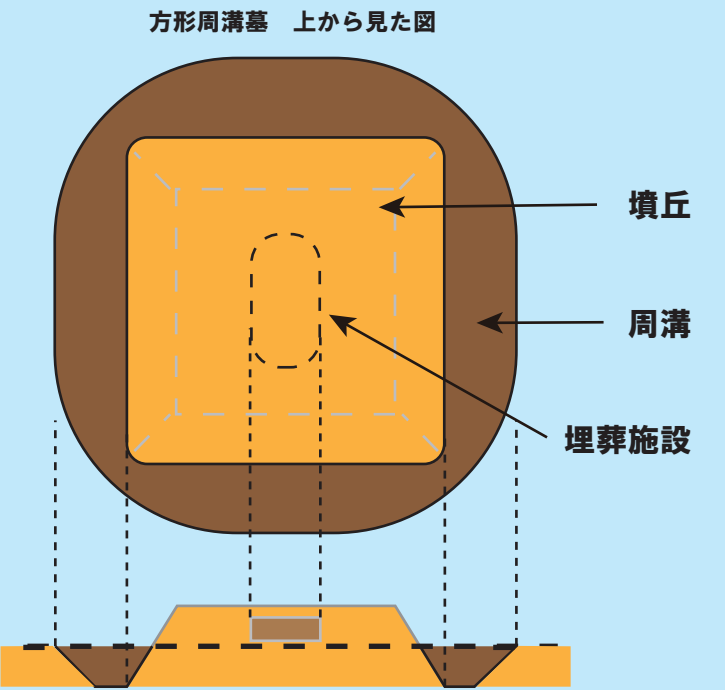
【**方形周溝墓1**】

墳丘の大きさ（南北）… 約8.3m
周溝の幅 … 約1～1.5m
溝の深さ（最大） … 約0.8m

【**方形周溝墓2**】

墳丘の大きさ（南北）… 約7.8m
（東西）… 約8.4m
周溝の幅 … 約0.8～1.1m
溝の深さ（最大） … 約0.5m

弥生土器の壺が10点ほど出土しましたが、高杯や甕などは確認できませんでした。



横から見た図

※埋葬施設は複数のものや単独のものがあります。
図は単独の埋葬施設の例



方形周溝墓1、2の遺物

A～Dの位置から弥生土器が出土しました。特にA、Bの位置で溝の底面に近い位置から出土したことから、これらの土器はこの方形周溝墓に供えられたものではないかと考えられます。



落ち込みから分かれた溝の側面

溝の側面を見ると、上部が内側に抉れているところがあります。このような形になるのは流水による浸食や土質の違いなど、様々な可能性が考えられます。

	弥生時代後期初頭		近代～現代
	弥生～鎌倉時代		検討中

谷状の落ち込み

谷状の落ち込みから弥生時代から鎌倉時代の土器が出土しました。僅かですが貝殻も出土しました。